

車田保存会

Kurumada Hozonkai

語り手 大森茂樹

聞き手 山本真紀

企画 高山市

取材日: 令和7年11月12日

車田保存協力会の解散

平成7年に車田の維持に協力していく「車田保存協力会」が結成されましたが、いろんな事情があって平成25年に解散されました。その後、車田の所有者だけで作業をしようとしたのですが、人手が足りずになかなか思うように作業できませんでした。秋に大雨があったりして稲刈りができず、稲がそのままほかれており、その状況を心配した地元の人が高山市の文化財課や農務課に相談されました。

当時、私は、高山市の会計年度任用職員として農務課で働いていて、職場でその話を聞きました。私も車田のある松之木町に住んでいるので、車田の作業に協力してくれる人を探すのにちょっと協力しようかなと、町内会のその当時の役の人やらにいろいろ聞いてみましたが、なかなか難しい。というのは、車田が個人の方の所有なので関わるのは簡単なことではなかったんです。

実際にいろんな人の意見を聞いていく中で、この田んぼは個人の物であっても、田植えなどの伝統的な部分は地域の大事な宝なんじゃないか。もっと地域で守っていかなくちゃいけないんじゃないかと考えるようになりました。

私は小坂の生まれで、結婚してから松之木町に家を建てて暮らすようになったのですが、松之木町には七夕岩があって、高山市民俗文化財の「松之木七夕」は地域でやっているのになぜ車田は地域でやらないのか。周辺には旧街道やひょうたん池、馬頭観音などがあります。その辺は、年に2回草刈りして整備しているのに、なぜ車田だけが地域が関わらないんだろうという思いもありました。



大森 茂樹

昭和29年8月4日生

車田保存会結成

じゃあ私自身が車田の保存に協力しようと考え、土地の所有者に相談しました。その後、以前の車田保存協力会のメンバーにも「車田の保存の協力をしようと思う」と話したら、中には「お前がやるんなら協力するわ」という人もいて、結局6人が集まりました。

保存協力会という名称はおかしいんじゃないかと思ったんです。会がほとんど主でやってるんだから、協力ではないですよね。なので、車田保存会という名前にしました。

車田は、岐阜県の重要無形民俗文化財に指定されています。その指定されるには土地の所有者ではなく、保存会などが文化財を継続していくという条件があったんですね。そもそも会の思いとしては、指定を受けたのは田んぼという土地ではなしに、昔からある車田で行う田植えや稲刈りなどの行為だと考えています。所有者の方には「うちの会が中心に車田の保存をやるんで、そちらは協力という形で進めさせてほしい」という話をして、了承してもらいました。

平成31年の2月に車田保存会の総会をしました。実はその前の秋に稲刈りをしていなかったのでも、まず稲刈りをした後、令和元年6月6日に6人で田植えをしたんです。今思うと、いい思い出ですね。

プロフィール

昭和29年8月4日生まれ

旧益田郡小坂町門坂出身 兄と姉を持つ。

昭和36年4月 小坂町立小坂小学校入学

昭和42年3月 小坂町立小坂小学校卒業

昭和42年4月 小坂町立小坂中学校入学

昭和45年3月 小坂町立小坂中学校卒業

昭和45年4月 岐阜県立斐太実業高校 林業科入学

昭和48年3月 岐阜県立斐太実業高校 林業科卒業

昭和48年4月 高山市役所 入社

平成24年3月 高山市役所 退職

平成24年4月 高山市施設振興公社 入社

平成27年3月 高山市施設振興公社 退職

平成31年2月 車田保存会 設立

車田保存会

Kurumada Hozonkai

田植え

車田は「七・五・三」の田植えっていう方法で植えています。車田の真ん中に杭を立てて、7本の線を引き、真ん中から外側に向かって、線の上に5株ずつ植えます。その1株の苗が3本。これが「七・五・三」の田植えです。

車田保存協力会ができた時に、昔から田植えの時に歌われてきた「田植え唄」を探してきて、民謡を歌うプロの人に歌ってもらっていたようで、その人が「田植え唄」を歌ったテープがあったんで手に入れて、専門家に頼んでCDにしてもらいました。毎年、田植え唄のCDをずっと流しながら田植えをしています。実は、稲刈りの時に歌われていた「稲刈り唄」もあって、そちらもなんとかしたいなという思いはありますが、歌詞はわかっているのに実際に歌える人がいないんですよね。

昔は、田植えだけじゃなしに植える前や刈る前にも神事的な行事があったんじゃないかと思っているんですけど、残念ながらそういった記録は、全く残ってなくてよくわからないんです。

昔は、車田で採れた米を伊勢神宮に奉納していたそうですが、今は伊勢神宮自体がそういう奉納を受けてないので奉納はしていません。



田植え

車田史跡公園リーフレット作成

令和6年度に「車田史跡公園」のリーフレットを作りました。リーフレットの作成には、松之木町内会や大八まちづくり協議会、一般財団法人金森公顕彰会などが協力してくれました。

あそこはね、車田だけじゃなしにあの一带が公園という風になっとるんです。やっぱり散歩しに来る方も結構いるので、公園とあわせて車田も知ってもらいたい。特に地元の人に知ってもらいたいんです。この思いは、車田保存会の会長を受けた時からずっと変わっていません。

また車田のキャラクターのネーミング募集や塗り絵コンテストもやりました。小学生から大人まで、広い年代に知ってもらえて良かったなって思っています。マグカップだったり、メモ帳だったり、いろいろキャラクターグッズも制作しましたが、楽しかったですね。

この企画を運営できたのは、保存会にデザインとかいろいろやってくれる女性が入ってくれたおかげだと思っています。田んぼに入って作業するだけでなく、得意なことを活かして車田に関わってくれることも大切ですね。田んぼに入らなくても会員になっていただいて、PRとかいろいろ協力してくれる方が増えるとありがたい。ちなみにその女性は、元々、高山の方ではありませんが、高山市が主催している協働のまちづくりフォーラムの展示がきっかけでこの会に興味を持って入会されました。改めてそういった場やつながりは大切だなと思います。



車田史跡公園散策マップ

車田保存会

Kurumada Hozonkai

これからやってみたいこと

車田は円形なので機械を入れにくいんです。昔は手作業で全部やっていましたが、その後には牛や馬を使って農作業をしていたそうです。実際、牛や馬を使って農作業をする道具も残っています。私自身も小さい時に、牛を飼っていて、うちの親が牛で農作業をやっていたのを見とるんですよ。それを覚えとるんで、車田の作業を牛でやってみたいと思いますね。

それで車田保存会でも牛とか馬で作業してみたいと思って、いろいろ相談したんですが、今、飛騨には農作業で使える牛や馬がいないんです。

長野県には木曽馬保存会があって、そこでは木曽馬を使った農作業をやっておる人がおるみたいです。ただ、その木曽馬と作業する人を車田まで連れてきて、ここで作業してもらおうと、やっぱり多くの費用がかかります。「車田保存会」の予算は年間 10 万円ちょっとです。いろいろな補助金なども考えましたが、なかなか難しいですね。

ただ、その他にもやらんならんこともいっぱいあるもんでね。今、ちょっとした機械を買ったのを機に、もともとあった小屋の増築をしたんです。車田は、天日干しやもんで稲架^{はさ}がある。次はその稲架^{はさ}を保管する場所を何とかしたいです。

もう一つは車田周辺の荒地を田んぼに復活させて、マコモという植物を植えたいなど。で、そのマコモでしめ縄を作りたいですね。マコモの下部分はマコモダケといって、薬草にもなるし、食用にもなるんです。実際に高山市にもマコモを作っている人がいて、今年はその人から一束、マコモを買って干しとるんです。飛騨はもともと稲の藁で作ってますが、出雲大社はマコモでしめ縄を作っているそうです。

課題

今、困ってることは資金かな。稲架^{はさ}を持って行こうとしたり重機を変えたりすると費用がかかりますからね。ただ、今の会員に大工さんや土木業者さんもみえるもんで、結構助かってるかな。小屋もほとんど材料費ぐらいで増築することができました。

車田だけでなしに周辺全体の景観的なものも気になるかな。周りの田んぼも含めて車田周辺の景観として残していくにはどうしたら良いのかな、と。

こどもさんにも車田の苗をちょっと植えてもらいたいのですが、賛否両論あるんです。イベント的にやっていいのかという意見もあるものですから、それがちょっとまだ解決してないという状態です。

伝統をつなぐ

今年はちょっと余分に長い藁を保管しておるので、それを毎年やっている小学校の縄を縛^なう体験に使おうと思っています。

そのうちに車田の藁を使って、しめ縄を作る講座なんかでもできると良いかな。そういうことをやれば、若い人や女の人にも車田に興味を持ってもらえるんじゃないかな。そして、保存会に入ってもらえると、尚、良いですね。田んぼの中に入らなくても、そういった車田を知ってもらう活動に協力してくれる人



キャラクターの塗り絵コンテストを開催



稲刈り

車田保存会

Kurumada Hozonkai

などいろんな形で関わる人が増えると良いですね。

今、車田保存会は14人いますが、ほとんど、地域外から来た方なんです。ずっとその土地にいる人より逆に地域外から来た方のほうが、そういった大切さがわかるかもしれない。新しい会員は増やしたいですね。いろんなメンバーに広げていくためにはもっとどうしたらいいかというのを考えていかなきゃいけないと思っています。

祭りなんかでも、女性はどうのこうのっていう時代があったけれども、今はだんだん性別なんか関係なくなってきましたよね。今、むしろ、笛とか太鼓とか女性もおります。また地元の人だけじゃなしに、やりたい人にやってもらうというように広げていってもいいかな。時代に合ったスタイルでやっていかんと続けていけませんよね。

まあ、やっぱり伝統や文化は受け継いでいってほしいという願いがあります。車田だけじゃなしに他の文化的なものにも興味を持って、受け継いでいくような人が増えてくれれば良いなと思います。



車田のキャラクター「くる太」の人形